

株式会社 相模樹脂工業
代表取締役

妻沼 和光

学業修了後は電気回路の設計技師に。勤務先の会社で(株)相模樹脂工業の創業者の娘と出会い27歳で婿入り。プラスチック成型の技術を学び義父の仕事をサポートする。2003年、2代目代表取締役に就任。近年はオリジナル製品を世に送り出すため、ベンチャー企業との連携にも積極的だ。



ますます広がるプラスチックの可能性 ベンチャー企業と組み独自商品も開発！

化粧品などのパッケージのプリスターパックと搬送用のトレーを中心に、多種多様なプラスチック製品を成型する(株)相模樹脂工業。半世紀を超える歴史を輝く未来へつなぐため、新製品の開発に奮闘しているのが2代目代表取締役の妻沼社長だ。俳優の宍戸開さんも、そのチャレンジ精神に大きなエールを送った。

Guest Comment>>



宍戸 開 (俳優)

シャンプーや化粧品の容器など、身近にあるプラスチック製品がどのように生み出されているかを考えたこともありませんでした。しかし、商品をより良く見せて安全に流通させるには、優れたプラスチック成型の技術が欠かせないんですね。(株)相模樹脂工業さんにはプラスチックの新たな需要を掘り起こし、今後もますます躍進していただきたいです。

用途が広がるプラスチック樹脂

宍戸 (株)相模樹脂工業さんの創業には、少し変わったエピソードがあるとうかがっています。

妻沼 ええ。もともと当社は、風景カメラマンだった義父が撮影資金を捻出するために、カメラを通じた大手樹脂メーカーさんのお付き合いを生かして1965年に創業しました。当時は小屋のような工場を建て、義母と二人でプラスチックを成型していたと聞いています。やがて当社は1970年に法人化し、2020年には50周年を迎えます。

宍戸 おめでとうございます。社長のご経歴も教えてください。

妻沼 私は、以前は電気回路の設計を手がける技術者でした。当時勤めていた会社で妻と知り合い結婚したことで、プラスチックのことはまったく知らないものの、婿入りして当社で働くことを決断したんです。まず知識を得るために、2年間はプラスチックの商社で営業や財務を勉強し、その後の2003年に、2代目代表取締役に就任しました。

宍戸 現在は、どのような商品を生産していらっしゃるのでしょうか？
妻沼 当社はプリスターパックやトレーなど、ものを入れたり運んだりするためのプラスチック製品をつくることが多いですね。最近は徐々に用途が広がって、電気自動車の部品を収納するトレーなど

も製造するようになりました。

宍戸 なるほど。たとえ御社の名前を聞いたことがなくても、手がける製品は私たちの生活に欠かせないものばかりです。まさに縁の下の力持ちというわけですね。でも、技術もあるわけですし、オリジナル商品も開発したいところでは？

妻沼 宍戸さんのおっしゃるとおりです。メーカーさんからのご要望にお応えするだけでなく、そこから脱却し、一般のお客様に販売する製品もつくろうと考えています。その一環としてベンチャー企業との連携も模索しております。例えば、開発したばかりの美顔器のカバーは、iPhoneをつないで音楽を流すと、その振動が肌に伝わり、フェイスクリアできるという優れたものなんですよ。

宍戸 おもしろい製品ですね。とても複雑な形状ながら、半世紀にわたって築いてきた御社の技術があれば、大抵のものは製造できるのですね。ぜひ、ほかの注目アイテムも教えてください。

妻沼 LEDを使った水耕栽培のケースもありますよ。ペットボトルを再利用して、水が足りなくなったら自動的に補給する仕組みで、開発には苦労しました。いずれ水耕栽培が本格的に普及すれば、さらにおもしろいことができるのではないかと考えています。当社の技術を生かせる新たな取り組みには、今後も積極的にチャレンジしたいですね。

Company Data>>



株式会社 相模樹脂工業

[本社工場] 〒252-0328
神奈川県相模原市南区麻溝台 8-5-9
[東京営業所] 〒151-0053
東京都渋谷区代々木 2-23-1
ニュー・ステートメナー 441
URL <https://www.sagami14.co.jp/>

小ロット多品種生産が得意

宍戸 時代の変化に合わせて挑戦する社長は、本当に生き生きとしていらっしゃいますね。それではあらためて、御社ならではの強みを教えていただけますか？

妻沼 当社の一番の強みは、小ロット多品種生産が得意なことでしょうか。金型を使わず試作用の樹脂型で製造することもできますし、業界にライバルと言える存在は少ないと自負しています。

宍戸 その卓越した技術を支えていらっしゃるスタッフさんは、何名くらいいらっしゃるのでしょうか？

妻沼 従業員は30名で、実は社員よりパートの女性のほうが多いんですよ。社内に花を飾る気配りや細かい作業を任せられることなど、とても助かっています。宍戸 そういえば、今日、お邪魔するときに何名かのスタッフさんとすれ違いました。皆さん明るく仕事に取り組んでいらっしゃいましたね。

妻沼 ええ。従業員みんなに働きやすい職場だと思ってもらい、それぞれが生き生きと働けるような環境をつくることも大切にしているんです。

技術とアイデアに絶対の自信！

宍戸 社長が、お仕事で最も喜びを感じる瞬間はどんなときですか？

妻沼 やはり、消費者が購入するものをつくり上げ、それが店頭で並んでいるところを見ると嬉しくなります。自分のつくった商品が世に出る瞬間は、ものづくりの職人として大きなやりがいを感じますね。

宍戸 それは職人冥利に尽きますね。他にはどのような取り組みを？

妻沼 今はプラスチックが環境問題の象徴のように扱われていますよね。そんな中、当社は端材をリサイクルするなどゴミの減量に取り組んでいます。プラスチックには基本的に捨てる場所がないなど多くのメリットがあることを、一人でも大勢の方に知っていただきたいですね。最近では土に還る分解性プラスチックも登場していますし、この仕事にはまだまだ大きな可能性があるんです。

宍戸 プラスチックは人間が発明した便利なものなのだから、自然と共存しながら上手に使うことが大事ですよ。50周年を迎え、新たな取り組みにも挑戦しようとする御社のご活躍に期待します。最後に今後の目標をお聞かせください。

妻沼 当社はこれからも、お取引先のご要望にお応えし続けます。一方でベンチャー企業と手を取り合っ、ユニークな商品を次々と生み出そうと意欲を燃やしているところです。技術とアイデアには絶対の自信がありますので、ぜひ一度お問い合わせをいただきたいですね！



▲妻の利江氏と共に